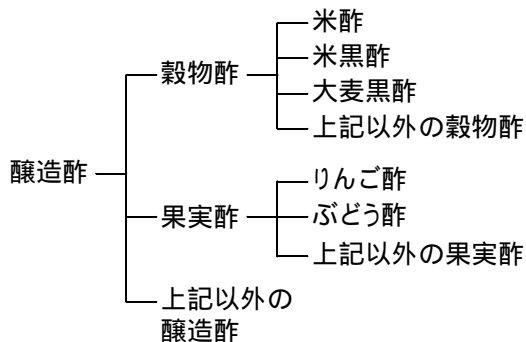


Q：黒酢の規格基準が制定されたと聞きましたが、どのようなものなのでしょうか？

A：近年，黒酢と称して販売される製品が増加する中で，製造業者及び消費者の双方から基準を制定する要望があり，平成16年6月23日に日本農林規格(JAS)が改正され，食酢品質表示基準の定めるところで表示することになりました。その中で，本県特産の黒酢は，醸造酢の中で穀物酢に属しており，規格に適合するものについては「米黒酢」，「大麦黒酢」と表示することになりました(下記表参照)。



米黒酢の定義では，穀物酢のうち，原材料として米(玄米のぬか層の全部を取り除いて精白したものを除く。)又はこれに小麦若しくは大麦を加えたもののみを使用したもので，米の使用量が穀物酢1Lにつき180g以上であって，かつ，発酵及び熟成によって褐色又は黒褐色に着色したものをいいます。また，その規格は，酸度4.2%以上，全窒素成分0.12%以上，着色度0.30以上であり，食品添加物(調味料，酸味料，着色料等)を一切使用していないことです。

一方，大麦黒酢は，穀物酢のうち，原材料として大麦のみを使用したもので，大麦の使用量が穀物酢1Lにつき180g以上であってかつ，発酵及び熟成によって褐色又は黒褐色に着色したものをいいます。また，その規格は酸度4.2%以上であり食品添加物を一切使用していないことです。

今回の改正では，米黒酢の規格が定められました。しかし，本県においては，この規格以外に独自の基準を策定し，その基準に適合するものは「ふるさと認証食品」として，認定マーク(3Eマーク)を付しています。

(食品工業部)

Q：異なるCADの間でデータのやりとりをしたいのですが，その方法について教えてください。

A：あるCADで作成したデータを他のCADで読み込もうとしたとき，ほとんどの場合は読み込むことはできません。これはCADで読み込めるファイル形式が統一されていないためです。

異なるCADの間でデータのやりとりを行うには，主に下の3つの方法があります。

中間ファイルに変換する。

最も一般的な方法は，中間ファイルに変換してデータのやりとりをする方法です。

中間ファイルとは，異なるCAD同士が共通に書き出し・読み込みを行えるファイル形式のことで，代表的なものにDXF，IGESなどがあります。

DXFは，AutoCADのファイル形式ですが，事実上2次元CADの標準的な中間ファイルです。2次元図面のやりとりに適しています。

IGESファイルは3次元CADの中間ファイルとして最も一般的なものです。ほとんどの3次元CADが対応し，書き出し・読み込み可能です。ただし，変換するCAD，変換条件などによってはデータのロスや欠落などの不具合が発生します。

トランスレータを使用する。

近年，CADデータをやりとりする機会が多くなりましたが，中間ファイルによるやりとりでは，変換の過程に発生するロスや欠落などが避けられません。

トランスレータと呼ばれるCADデータ変換用ソフトウェアを使用することで高い確率でロスや欠落のないデータのやりとりを行えます。

同じカーネルを持つCADを使用する。

カーネルとは，3次元CADを構築したり，操作するための基本プログラムです。

異なるCADでも，基本部分が同じなのでデータの互換性は非常に高く，代表的なものにParasolid，ACISなどがあります。

(機械技術部)